

あかり

A K A R I

病院内学級

検査ミニ知識、障害年金
放射線科より、外来の紹介
リハビリテーション科
ボランティア募集、療育指導室
再来診療のご案内、医療連携室
はじめて当院を受診される方へ
当院へのアクセス、イベント情報、本

看護師さんを募集しています

静岡県立中央特別支援学校 病院内学級

静岡てんかん・神経医療センターには、てんかん小児病棟入院中の子どもたちのための「おおぞら学級」と、重症心身障害児病棟入院の子どもたちが通ってくる「わかくさ学級」があります。わかくさ学級は昭和54年度より、おおぞら学級は昭和57年度より訪問教育が行われてきました。病院・保護者・学校関係者の願いが実現し、平成17年度に「病弱学級」となり、授業時間や教室スペースが充実しました。

入院している子どもたちは、御家族から離れて、闘病あるいは入院生活を送っています。そうした生活のストレス・不安を軽減することや、学校の規則的な日課により心と体の生活リズムを整えていくことをまず大切にしています。また、発達段階や発達の偏りに応じて、「コミュニケーションの基礎」「関わり方の基本的なルール」「集団での活動を楽しめる力」を育てて

いくことも目標にしています。

わかくさ学級：重症心身障害児病棟入院の子どもたち

学習は個別で行うものと集団で行うものがあります。身体をリラックスさせたり音楽を聴いたりいろいろなものに触れたり、様々な学習をしています。

個別学習では、一人一人に合わせて見る、聞く、触るなどの感覚機能を高める学習や、身体の機能を高める学習、コミュニケーション能力を高める学習などを行います。

集団学習では、水遊び、遊具遊び、暗闇遊び、図工、音楽や病棟文化祭参加のための学習などを行います。本校の文化祭（大輪祭）にも参加します。毎日を健康に過ごせること、そして豊かな表情や表現ができることをめあてに楽しく学習しています。

おおぞら学級：てんかん小児病棟入院の子どもたち

おおぞら学級の子どもたちは、治療のために入院している子どもたちで全国各地から転入してきます。1日3～4時間、週5日の学習を行います。地元の通常学級、特別支援学級、特別支援学校など様々な学校・学級に在籍していた子どもたちが集まりますので、グルーピングを工夫し一人一人に合った学習が用意できるように努力しています。少人数（2人～10人程度）の集団で、地元の学校の進度に合わせての学習のほか、制作活動を中心に取り組むなど学習内容も様々です。また、体育館での体育、本校でのプール、年3回の校外学習はどの子どもにも人気があります。



わかかさ学級

近年は、1～2ヶ月間の短期在籍者が、約半数以上を占めます。

1日も早く退院できることがよいのですが、在籍が長くなった子どもの中には、「得意なことや苦手なこと」「苦手なことに取り組むための有効な方法」「自分で気持ちを落ち着ける方法」などを見つけることができた子どももいます。退院後の学校生活に役立ってくれることを願っています。

（病院内学級主任 三浦聖子）



おおぞら学級

「てんかん情報センター」がオープン！

てんかんに関するさまざまな情報を集積した「てんかん情報センター」を外来管理棟1Fに開設しました。どなたでもご利用できますので気軽にお立ち寄り下さい。

（活動内容）

1. てんかんに関する書籍・雑誌・ビデオなどの閲覧
2. ホームページによる情報提供
3. てんかん協会との連携
4. 医療などの相談（準備中）



病院の理念

「安心と信頼、良質なてんかん・神経の包括医療」

看護師さんを募集しています！

常勤職員：病棟勤務 夜勤有り

非常勤職員（外来、B型通園）

経験の少ない方、育児等でブランクのある方でも心配はご無用です。「じっくり患者様と関わりたい」「ゆとりのある看護をしたい」とお考えの方、ぜひ当院で働いてみませんか？

相談、見学等随時お受けしております。お気軽に看護部長室までご連絡ください。

TEL：054-245-5446

Email：kango-bu@szec.hosp.go.jp

検査
ミニ知識

頭蓋内脳波検査

“頭蓋内脳波”っていかにも怖そうな名称ですね。どのような時に頭蓋内脳波検査が必要なのでしょう。

通常の脳波検査ではてんかん発作の焦点（源）が明らかにできなかった場合です。開頭術により電極を留置し、2週間連続して脳波検査を行ないます。

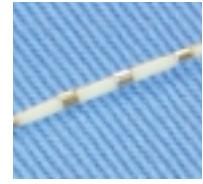
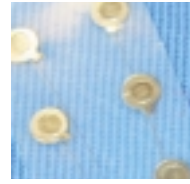
頭蓋内脳波で使用する電極には2種類あります。

- ・硬膜下電極：主に皮質表面に広範囲に留置し電位を記録する

- ・脳内電極：海馬、扁桃体など特定の脳部分に挿入し、脳深部の電位を記録する

これらの電極の組み合わせによって、頭蓋内脳波は記録されます。

通常の（頭皮上）脳波検査で使用する電極に比べ切



除範囲をより正確に知ることが出来ます。

また、2週間の記録期間中に、脳の機能を精査する検査（誘発電位検査、皮質刺激検査など）も行なわれます。運動や感覚などの大切な機能を切除範囲から外して、術後の日常生活に支障が起こらないようにする為の検査です。

私たち臨床検査技師は、正確かつ円滑に頭蓋内脳波を記録し、情報を医師や患者様に提供し、スムーズに切除手術がおこなえるように縁の下の力持ちとして従事しています。

（臨床検査技師 山口みや子・石川万里子）

障害年金 ~後編~

今回は障害年金を請求する際のポイントについてご紹介します。

請求前の準備 ~まず確認しておきましょう~

初診日

現在治療を受けている病気と違う診断をされていても、今の病気に起因する病状があったため受診したという経過であれば、その病院が初診となります。初診日がいつだったかにより、申請する年金の種類が異なってきます。

治療歴

発病～初診～現在までの治療の経過を時系列で書き出してみてください。

窓口に相談・書類の入手

窓口にて障害年金の申請希望を申し出ます。たいていの場合、初診の時期や年金納付状況、現在の病状の確認をした上で、納付条件を満たしていれば申請書類を入手できます。

必要書類をそろえる

・診断書

主治医に依頼します。診断書の内容は、病状だけ

でなく日常生活状況、在宅支援状況など広範囲です。主治医に依頼する際には、病状説明に加え、その病状が故に日常生活上困っていること、辛いと思っていることを具体的に伝えてください。

・病歴・就労状況等申立書

本人又はご家族が記入します。これまでの治療経過や生活状況について、自分の覚えている範囲で記入します。受診の経過や日付は医師の診断書と整合性を図ります。

申請

申請書類が揃ったら再び窓口へ行きます。書類以外に提出が必要なものがあるので、窓口に出向く前に事前に確認しておきましょう。診断書・申立書は提出前にコピーをとっておくと良いでしょう。

窓口は

- ・市区町村役場の年金課
- ・社会保険事務所
- ・共済組合

保険の種類や初診日によって異なります。

放射線科より

放射線？

当院の放射線科で行われている検査は、MRI検査を除き全て放射線を利用しています。

放射線は目に見えず、匂いもしないので普段気にすることはありませんが、私たちは常に放射線を体に受けています。これを自然放射線と言います。

自然放射線にはいろいろあり、一つは宇宙からの放射線で、0.3mSv/年あります。(mSv：ミリシーベルトは放射線の量の単位です)その他、空気中からの放射線で、1.3mSv/年、大地からの放射線で0.4mSv/年、食べ物からの放射線で0.3mSv/年あります。放射線を受ける事を、被曝といいます。例えば日本とニューヨークを飛行機で往復すると0.1mSv被曝します、また、イランのラムサル市は大地に放射性物質を多く含んでいるので、100mSv/年、被曝します。(日本の標準的な地域の約40倍)

では、放射線は人体にどのような影響を与えるのでしょうか。

一度に放射線を全身に被曝した場合、1000mSvで吐気や嘔吐がおこり、7000mSvで100%の人が死亡します。部分的に被曝した場合、3000mSvで脱毛がおこり、7000mSvで水ぶくれができます。また、生殖腺に4000mSv被曝した場合は不妊になります。

放射線科で行われている検査は、CTで20mSv(検査部位において)程度、脳SPECTで5mSv(脳)程度となっております。日本人が自然界から受ける放射線量の数十倍ですが、特に自然界からの放射線量の多い区域(これらの区域で放射線による影響の報告は出ていません)よりも低い値となっております。

通常の放射線検査で人体に影響があることはありません。ご安心下さい。

(放射線科 児玉和久)

外来の紹介

まずは外来スタッフの紹介をします！

堀江看護師長、望月看護師、小股看護師、麻生看護師、山本看護助手の5名です。

わからないこと、苦情は、スタッフに何でも言ってください。明るく元気なスタッフです。

外来は主にてんかん科と神経内科で診療が行われています。

毎日約150名前後の患者様が受診されています。診療は予約制ですが、担当の先生が丁寧に優しく診療されるので予約時間がずれることも多々あります(申し訳ありません)。待ち時間が長く退屈のぎにお子様にはプレイルーム、Babyには授乳室、大人には図書部門も用意していますのでお気軽に声を掛けてください。漫画もありますよ！

外来のモットーは“いつも笑顔を決やさず元気に患者様に接するように心がけ、明るい外来にしよう”です。よろしくネ!!

(看護師長 堀江恵子)





REHABILITATION リハビリテーション科のご紹介

神経難病のリハビリテーション ～言語聴覚部門～

前号でお伝えした通り、今回は言語聴覚士の紹介をさせて戴きます。

言語聴覚士とはことばや聞こえなどのコミュニケーションに障害のある方に検査や評価を行ない、問題を改善・維持するための訓練や援助を行なう専門職です。

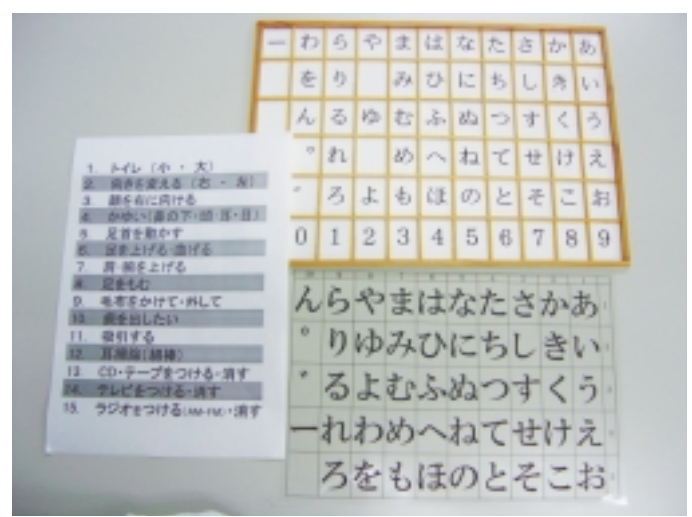
コミュニケーションの問題として口唇や舌などの発声発語器官に麻痺や異常運動が起きると、発音がうまくできなかつたり声質の異常や声の大きさや速度が調節できなくなつたりします。その原因となる発声発語器官の機能回復訓練や声の大きさや速度の調節の練習、またその代償手段の獲得を行ないます。代償手段には多くのものがありますが前回紹介させていただいた作業療法士が機器に関したものを行なっており、言語聴覚士は主に文字盤という手段の獲得を行なっています。患者様の予後を推定しながら操作方法を練習し、自宅に戻られてからも継続して使用できるようにするため、よく使用する言葉を表にし家族と一緒に練習を行ない日常のコミュニケーションに役立つようにしています。

その他に「食べるとむせてしまう」、「うまく飲み込めない」などの摂食・嚥下障害の方の評価、訓練・指導なども行なっています。食事は1日3回あり生命を維持するためにとても大切なものです。しかし誤嚥や窒息などと

きには命にも関わることがあり危険を伴うものでもあります。安全においしく食事が出来るように患者様に適した姿勢や食事形態を決定し、一口量や飲み込む回数などの食べ方の工夫を理学療法士や作業療法士、栄養士などの多職種と協力して行なっています。

話をする、食物を食べるということは人が生きていく上でとても大切なことです。少しでもよりよい生活が送れるように患者様と一緒に悩み必要なサービスを提供できればと思っています。

(言語聴覚士 西條直子)



静岡てんかん・神経医療センターからのお願い

ボランティアを募集しています!

「ウッドデッキ野外コンサート2008」

日 時 2008年9月16日(水) 13:00~15:30
 ボランティア内容 車椅子での移動介助、患者さまとのふれあい
 お問い合わせ 静岡てんかん・神経医療センター
 Tel 054-245-5446(代表)
 療育指導室 大道まで(内線1950)



イチゴちゃんとフジオくん

療育指導室便り



これまで3回に分けてんかん小児病棟の入院患者様を対象に行っている集団療育指導の紹介をさせていただいてきました。今回は最後のグループ「あひるグループ」についてご紹介したいと思います。

「あひるグループ」では、全身を上手にを使って運動をすることや粘土やはさみなど手先を上手に使えるようにすること、お友達を意識したり一緒に関わって遊ぶこと、お友達との遊びの中でのルールを理解や自分の気持ちをしっかりと言葉で伝えること、先生のお話をしっかりと聞くこと等、子どもさん個々の運動や操作、遊びや言葉などの力つけていくと共に集団に参加する上で必要な力をつけていきたいと考えています。活動内容は、始めの会、運動(体操やサーキット、ゲームなど)、ままごとを基本にその日の子どもさんに合わせ少しずつ内容を変えて行っています。また、これまで紹介したグループとは違い、お母さんと離れ先生とお友達だけで活動をしていきます。

それでは活動の様子を少し紹介したいと思います。まずは元気のよい「始めましょう」の挨拶から活動は始まります。カレンダーワークでは今日は何月何日か確認、出席シールを貼ります。みんな月日や曜日、天気のところを頑張ってお返してくれます。その後、先生から今日の内容を聞き活動が始まっていきます。始めの会の後は、広いお部屋に移動し体操です。しっかりお友達と手をつないで移動ができるかな？体操では、先生が交代。体操の先生に何をやるかを聞いてみます。その日によってやるのが違うのですが...たとえば、「ぞうさんのあくび」の体操。やったことのないお友達は先生のまねをして一生懸命音楽に合わせて体を動かします。かくれんぼや鬼ごっこでは、鬼をジャンケンで決めたり鬼に捕まらないように上手に逃げたり、かくれたりします。みんなちゃんとルールを間違えずに上手にできるかな？ボーリングやサーキットでは、自分の番に頑張るのはもちろん、順番を守ったりお友達の応援ができることもとっても大切です。体操の後は、またお部屋を移動し今度はままごとです。その日によってはままごとの前に粘土やお絵かき、制作などをすることもあります。ままごとでは、何の役になるか、お店屋さんを誰がやるのかみんなでお話をして決めます。お店屋

さんなどは人気があるときにはジャンケンで順番をきめてやることもあります。お買い物に行ってお料理をして...みんなでままごとをします。お店屋さんやお客さんになれるかな？お母さんお父さんはどんなことをしてるかな？いつもお家でどんなことしてるかな？そんなことを考えながらその子どもさんができるとままごとを楽しんでいきます。必要に応じて先生も参加をし、どうやったら上手に遊べるか見本を見せながら一緒にままごとを行っていきます。そんな風で遊んでいるうちに1時間45分の時間はあっという間に過ぎていってしまいます。最後はお片付けをして終わりの挨拶です。

子どもさんによって、得意なことや苦手なことはそれぞれ違います。一つの課題や流れのなかでその子どもさんに合わせた“こんな事ができるといいな”と言うことを考えながら活動を行っています。その中で必要に応じて先生もいっしょに行ったり、指示の出し方や関わり方など“こうすると上手に参加ができるかな”と言うことを試行錯誤しながら、集団への参加に向けてその子どもさんに必要なことを見つけて行きたいと考えています。

木曜日の午後、療育棟から子どもさんたちの元気で楽しそうな声が聞こえてきたらそれはきっとあひるグループのみんなだと思います。そんなときには、みんなの楽しそうな様子をちょっとのぞいていってみてください。きっとステキな笑顔がみれるはずですよ。

(保育士 和田麻由乃)



再来診療のご案内

てんかん科

	月	火	水	木	金
第1診察室	中村	中村	臼井桂		臼井直
第2診察室	久保田英	松田		久保田英	
第3診察室			井上	今井	今井
第4診察室		鳥取	日吉		日吉
第5診察室	池田仁	久保田裕	久保田裕	寺田清	寺田清
第6診察室	芳村	山崎悦		芳村	馬場好
第7診察室	下村	下村			大谷
第8診察室			藤原		
第9診察室	重松	高橋		高橋	重松

午前の診療時間は8:30 - 12:00 午後の診療時間は13:00 - 16:30

神経内科

	月	火	水	木	金
第10診察室	溝口	寺田達	溝口	馬場国	溝口
第11診察室	杉浦	小尾	山崎公		小尾

特殊外来

転倒予防外来	随時	溝口、小尾
物忘れ外来	随時	溝口、小尾
遺伝相談	適宜	高橋、溝口、小尾

再来診療は予約制です。予約ができない場合は午前中にお越しください。

Guidance

医療連携室のご案内

医療機関間のコミュニケーションを円滑に行うために、医療連携室（予約センター）を設置しています。ご利用ください。

電話：054-246-4580（初診）

：054-246-1065（再診）

Fax：054-246-4607

予約センターの受付時間：9:00～12:30
13:30～17:00

Email: renkei@szec.hosp.go.jp

担当：森（外来管理棟 2階）

休診日及び時間外は、

TEL: 054-245-5446（代）

当院では、脳波、筋電図、誘発電位、脳磁図、終夜ポリグラフ、CT、MRI、SPECTなどの検査が可能です。共同利用も可能です。上記、医療連携室にお問い合わせください。

編集後記

今回のあかりはいかがでしたか？

これから太陽がまぶしい季節に入っていきます。

日差しは強く、気温も高くなります。

水分補給をして体調には気をつけて、これからの季節を乗り切りましょう。

これからも皆様楽しく読んで頂けるような内容を掲載してまいります。ご意見・ご感想をお待ちしています。次号もお楽しみに。

編集人：広報誌編集委員会

井上有史、寺田清人、藤井千穂子、豊泉三枝子、
佐倉裕二、児玉和久、緒方栄司、堀田真子、
中澤光代、長田英喜

発行：平成20年7月20日

国立病院機構 静岡てんかん・神経医療センター

〒420-8688 静岡市葵区漆山886

Tel: 054-245-5446 Fax: 054-247-9781

<http://www.shizuokamind.org>

Email: shizuoka@szec.hosp.go.jp

はじめて当院を受診される方へ

診察は予約制になっています。

1 受診のための手続きは...

予約は、ご本人・ご家族から当院医療連携室（054-246-4580）へ、あるいは主治医の先生から当院医療連携室へ申し込んでください。その際、ご本人の氏名・性別・生年月日・住所・電話・保護者氏名をお尋ねいたします。電話をいただきますと、その場で受診日を決め、折り返し当院からくわしい書類をお送りいたします。

2 セカンドオピニオンについて

セカンドオピニオンもお引き受けいたします。

3 紹介状について

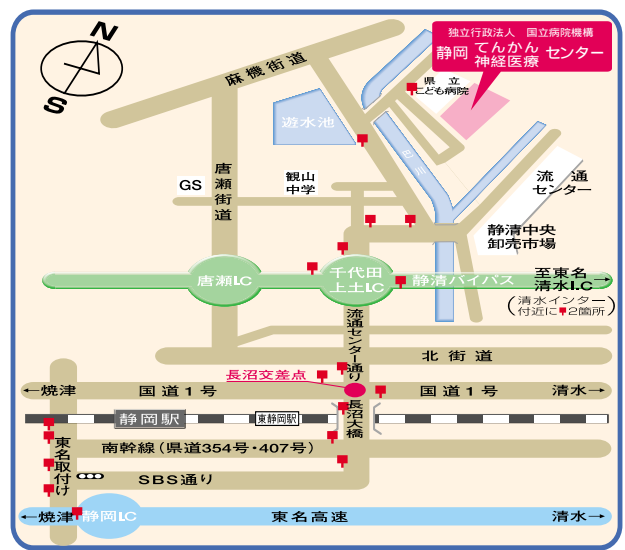
現在すでに病院へかかっておられる方は、主治医の紹介状があることが望ましいですが、なくても結構です。紹介状がない場合は別途費用（2,625円）がかかりますので、ご了解ください。病院からの資料もあれば望ましいですが、なくても結構です。

4 緊急を要する時は...

受診日は病状に応じてできるだけ対応いたしますので、緊急を要する時はその旨をご連絡下さい。

access 当院へのアクセス

バスをご利用の場合	JR静岡駅前、北口バスターミナル2番線より静岡鉄道バスにて、こども病院線「67こども病院・国立神経医療センター」行に乗車、終点の「国立神経医療センター」で下車。全所要時間は約30分。片道料金は大人350円、小児180円。
タクシーをご利用の場合	JR静岡駅前(北口)より乗車。所要時間は約20分。料金は2200円程度
お車の場合	東京方面から 東名高速清水インターより、静清バイパスを静岡方面に向かい、千代田・上土出口から流通センター通りを北へ数分。所要約20分。
	名古屋方面から 東名高速静岡インターより、国道1号線を清水方面に向かい、長沼交差点を左折、流通センター通りを北へ数分。所要約30分。



イベント情報

専門職のためのてんかんセミナー（てんかんをもつ乳幼児に関わる専門職対象）

8月28日（木）「乳幼児のてんかん」

於：静岡てんかん・神経医療センター3階講堂

詳細はホームページをご覧ください

てんかん研修セミナー（成人てんかん医師対象）

8月29日（金）～30日（土）成人てんかん診療の基本を研修します。

於：静岡てんかん神経医療センター3階講堂

詳細はホームページをご覧ください

てんかん看護セミナー（看護師対象）

10月23日（木）～24日（金）

於：静岡てんかん・神経医療センター3階講堂 定員：20名 申し込み制

詳細はホームページをご覧ください

本

やさしい「てんかんの自己管理」ポケット版（八木和一著、医薬ジャーナル社、2006年）

病気や病気への取り組みについて、やさしい解説がしてあります。

小児てんかん診療マニュアル（診断と治療社、2006年）

小児てんかんの教科書です。

難治性てんかんの外科治療プラクティカル・ガイドブック（診断と治療社、2007年）

てんかん外科治療の最新教科書。

アトラス てんかんの発作間欠時・発作時脳波を読む（診断と治療社、2007年）

てんかん症候群におけるあらゆる病態の脳波記録を網羅的に掲載し、それぞれについて詳細でわかりやすい脳波判読のしかたを解説しています。

てんかん症候群：乳幼時・小児・青年期のてんかん学（中山書店、2007年）

世界で愛読されているてんかんの教科書です。典型的な発作DVDが付属しています。

抗てんかん薬ポケットブック（三島信行監修、日本てんかん協会、2008年）

抗てんかん薬についての解説書です。